

実際に商品を使用する際は、必ず商品に書いてある説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

【適用害虫と使用方法】 ←この色の部分が2016年9月7日付けで変更になりました。

※印は収穫物への残留回避のため、本剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数 ※	使用方法
花き類・観葉植物（ばら、ベゴニア、はぼたん、ガーベラを除く）	アブラムシ類	1g/株 (但し、40g/m ² まで)	発生初期	本剤:4回以内 アセフェート:5回以内 クロチアジソン:4回以内	生育期 株元処理
ばら	アザミウマ類 コガネムシ類幼虫 クロケシツブチョッキリ チュウレンジハバチ	2g/株 (但し、40g/m ² まで)			
はぼたん	アブラムシ類、 アオムシ	2g/株 (但し、40g/m ² まで)			
ベゴニア	アブラムシ類、 コガネムシ類幼虫				
ガーベラ	アブラムシ類、 ハモグリバエ類				
クロトン	アブラムシ類、 ミカンコナカガラムシ				
トマト	アブラムシ類	1g/株	定植時	本剤:1回 アセフェート:1回 クロチアジソン:4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	植穴処理 土壌混和
なす		2g/株			
きゅうり	コナジラミ類				

【効果・薬害等の注意】

- ① ばらのアザミウマ類、コガネムシ類幼虫、クロケシツブチョッキリ、チュウレンジハバチには、鉢植え以外で使用した場合、効果が劣ることがある。
- ② 栽培本数が多い場合には、1m²当たり40gを超えないように適用の範囲内で1株当たりの単回使用量を調整する。
- ③ 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意する。
- ④ 適用作物群に属する作物又はその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。

【安全使用上の注意】 **ミツバチ注意**

- ① 体調のすぐれない時は散布しないでください。
- ② 散布中及び散布当日は小児、ペットなどが近付いたり立ち入らないように注意してください。
- ③ 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ④ ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。マルハナバチを利用する場合、本剤使用後20日目ごろより後に導入すること。ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意してください。
- ⑤ 使用後の空容器、空袋は良くたたいて中身を完全に出してから処理する。